

東京成徳大学臨床心理学研究 2号 〈巻頭言〉

去年の創刊号につづき、ここに東京成徳大学臨床心理学研究2号を発刊する運びとなったことは、わが大学大学院心理学研究科および心理・教育相談センターでの研究活動が順調に進められている一つの証になると思います。本大学院は1998年に産声をあげ、2歳になった2000年に昼夜開講制となり、今年是在学生が55名、常勤教員12名となっています。ようやく世の中がみえはじめてくる4歳児になるところです。幼児期の子どもは、運動や思考能力は児童期以降の人には及びませんが、好奇心と行動力は負けていません。講義や演習・実習、修士論文の指導、および心理・教育相談センターでの指導などに、各教員が多くのエネルギーを注いでいます。その成果の評価はこれからですが、この紀要の出来具合はその一つとなるでしょう。

心の世紀といわれて始まった二十一世紀も早一年が過ぎました。この一年にもまた、大勢の人の心のケアが必要な事件が多発しました。その中でも、アメリカで起きた同時多発テロはアメリカ人だけではなく、世界中の多くの人々に深い心の傷を残しました。アメリカでは早速、精神科医、心理学者、教師などが協力しあいながらPTSDに苦しむ子どもや大人のケアに当たっているということです。ここでは、いままで考えられなかったような子どもたちどうしの助け合いや、大人の協力関係が生まれているようです。日本でも昨年起きた池田小学校事件で心の傷が癒されないまま二年目を迎えた子どもたち、ご両親や先生方などが大勢います。学校に適應できない子ども、非行に走る若者、職場の人間関係に苦しんでいる人、家庭に問題を抱えている人、これからどのように生きていったらいいか迷っている人など、いろいろな心の問題で悩んでいる人が増えています。これらの人々へ援助の手をさしのべることができる専門家がますます必要とされています。

わが大学院もそのような心のケアの専門家を養成するために創設されました。まだ4歳児と幼く、技術も未熟ですが、教員も院生も、やる気が旺盛で、一生懸命精進しています。皆さんの暖かいご指導と援助をお願いいたします。

2002年3月

東京成徳大学大学院心理学研究科長
杉原 一昭